

先生との想い出

桜美林学園同窓会 滋賀県支部長の岡本三四二さんに、学生時代に会った清水安三先生のことを語っていただきました。

間近で見た「真の教育者」安三先生



岡本 三四二さん
桜美林学園同窓会 滋賀県支部長



12月2日に開催した「清水安三先生を学ぼう会」。岡本さんの貴重な話を参加者は熱心に耳を傾けていました。

私が初めて安三先生と出会ったのは高校生の時です。場所は、先生の生家で「美世図書館」でした。友達とグループを組んでクリスマス礼拝の慰問をしていた時です。もちろんその時は、先生がどんな人なのか、桜美林学園というのがどんな学校なのかも全く知らず、高校3年生になって人の紹介で初めて知りました。

私の家は貧乏でしたので、大学に行くことも考えていませんでしたが、先生の招きにより進学が叶い、その上特待生以上の待遇も与えていただきました。ただ、ひとつだけ条件がありました。それは桜寮という女子寮の舎監助手としての仕事をすることでした。私は、学生時代の3年間をそこで過ごしました。

私が通っていたころ先生は学長の職に就かれており、学園の丘の上にある復活の丘教会の横に建て

られた平屋の小さな家に住んでおられました。とても学長がお住まいになるような家ではなかったのですが、非常に驚きました。でも、最初の印象がこれだったので、かえって私には身近な存在に感じることができました。

また、先生はいつも桜美林学園の将来やOB・OGのお話をされていました。こんな人がいた、あのときの卒業生がこんなことを実現してがんばっている……。先生は、子どもたちのことが、本当に好きだったんだと思いました。将来、社会に役立つ子どもを育てる……。先生の間近で見せていただいた「真の教育者の姿」が、強く印象に残っています。

私が安三先生と共に過ごしたのは、ほんのわずかな時間でしたが、厚くてあったかい手の感触は今も心に残っています。

今だからこそ、 教育を市民劇のテーマに 市民劇第3弾は、清水安三先生

来年度は清水安三先生を題材に、第3弾の上演を予定しています。今作の脚本・演出をされる大峰順二さんの想いを伺いました。



第2回市民劇（平成22年11月上演）
「琵琶湖治水の物語」



第1回市民劇（平成20年9月上演）
「藤の樹と風と一中江藤樹物語」

「槿の花よ」 （仮題）

12月7日⑤・8日⑥

上演予定！

大峰 順二さん
劇作・演出家

西洋の文化や価値観が怒涛のよう押し寄せ、さまざまな激論が交わされていた明治という時代が、まもなく大正という時代に移ろうという頃。青春の真っただ中であつた清水安三は、クリスチャンとして生きていくことを決意した。つまり、混迷する社会の中で「人間愛を貫く」生き方を選択したのである。そして、妻・美穂子とともに中国へ渡り、学校を開設する。その後、激しさを増す戦火の中で「愛とは何か」「人間とは何か」「教育とは何か」を考え続け、実践の中で答えを見つけようとする。その苦闘は、終戦の、その日まで続く。

清水安三という人の生涯を概観

した時、私の心底に「人が人をつくる」「人は人をつくる」という言葉が形成された。「人が人をつくる」……。これは中江藤樹、牧師ヴォーリスをはじめとした先達との出会いや、その生き方に対する感動が清水安三という人をつくっていったという意味である。「人は人をつくる」……。これは、そのようにして成人した彼が、戦時下の中国で、一切の差別を排し、貧困のどん底であえぐ娘たちに、極めて人間的な教育活動を行い、その自立と成長を促したという意味である。今回の市民劇では、この「愛に満ちたふれあい」に焦点を当てようと思う。

実行委員・
出演者・スタッフ
募集中！

実行委員会では、ただいま仲間を募集しています。私たちと一緒に、感動の舞台を作り上げましょう！お気軽にお問い合わせください。

岡藤樹の里文化芸術会館
☎(32)2461